

平成30年度エゾシカ利活用推進モデル地域実証事業 (ペットフード基礎調査) 実施報告書 [概要]

1 目的及び概要

エゾシカを原料とするPFを地域資源として活用を推進することを目的に、その特性に係る科学データを把握するとともに、それを生かした活用方法を提案するため、犬猫の嗜好性、健康への影響(以下、「嗜好性等」という。)調査及びPF成分分析を実施した。

2 実施期間

平成30年12月19日から平成31年3月29日まで

3 実施内容

(1) 嗜好性等調査

犬：10頭を対象に4週間、エゾシカ肉を提供し、手作り又は市販品にトッピングして提供

猫：29頭を対象に1週間、エゾシカジャーキー(粉末)を市販品にトッピングして提供

※給与方法や給与上の注意事項は本編資料参照

(2) 栄養成分検査

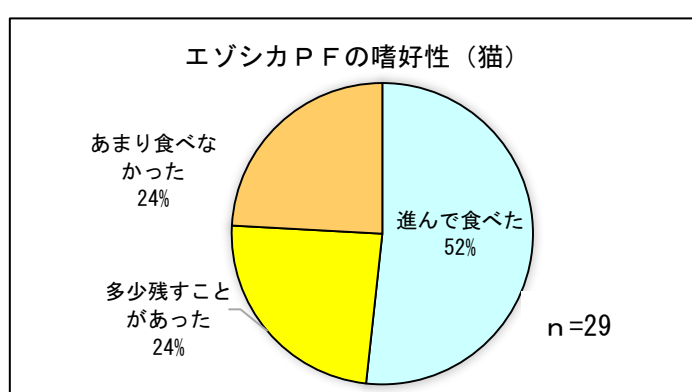
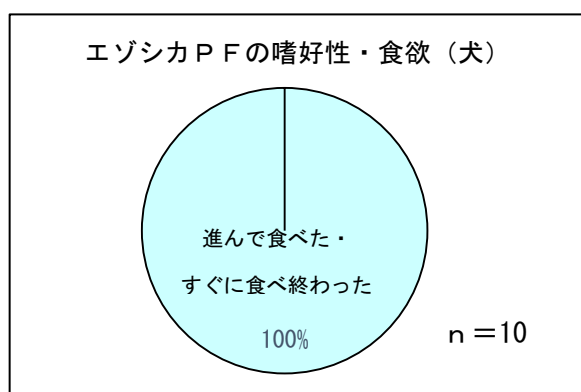
検体：エゾシカ製品2種類(ジャーキー、レバージャーキー各1種類)、猫用缶詰1種類(主要原料鶏ささみ)、犬用缶詰2種類(主要原料牛肉、総合栄養各1種類)

4 実施結果

(1) 嗜好性等調査

犬：全頭で高い嗜好性及び食欲を示し、毛づやがよくなる、食欲が増すなどの変化があった一方、下痢や軟便、血液検査で腎機能関連に異常値が見られた個体があった。

猫：嗜好性及び食欲は個体差があり、高い嗜好性を示したのは約半数で、便の臭いがきつくなった、回数や量が減った以外の健康上の変化は見られなかった。



(2) 栄養成分分析検査

エゾシカ製品はジャーキーを検査に供したこともあり、主要原料では他の検体よりも水分含有量が少なく、タンパク質と脂質の割合が高くなっていた。エゾシカジャーキーはリンとマグネシウム、アラキドン酸が、エゾシカレバージャーキーはカリウム、リノール酸、アラキドン酸が高い数値であったほか、アミノ酸も全般的に高い数値であった。

5 考察

(1) 犬について（嗜好性と給与上の注意点、給与方法）

嗜好性、食欲とも非常に高いことから、食欲の落ちている状況やしつけやおやつ、ダイエット効果を期待しての活用が想定される。一方、健康への影響がある個体があったことから、高齢や基礎疾患のある場合は獣医師と相談するなど、健康状態を確認しながら給与することが必要と考えられた。

給与方法は今回嗜好性の高かった生肉の調整（調理・手作り）品、市販品へのトッピングのほか、缶詰やレトルト製品、ジャーキーなどの既製品を調整せずにそのまま給与する方法も高い嗜好性が期待される。

(2) 猫について（嗜好性と給与上の注意点、給与方法）

全ての個体について体調に変化は見られなかったが、高い嗜好性、食欲を示す個体が約半数、それ以外が約半数であり、猫は好き嫌いがあるという通説を裏付けることとなった。嗜好性が高かった個体については、食欲が落ちる状況での活用が想定される。

給与方法は今回、日常の餌にジャーキーを粉碎したものを振りかけて給与したが、嗜好性が低い個体には、形態、食感、給与方法を変えることにより、嗜好性が向上する可能性がある。

(3) 栄養成分について

エゾシカのジャーキー2種については乾燥させているため、食欲がない場合等に少量で高い栄養を効率よく摂取することが可能になると考えられた。

(4) エゾシカPFの普及、利活用拡大に向けて

①製造時に留意すべき事項等

製造者は安全性の確保を最優先として製造することが重要となる。

エゾシカPFの市場ニーズは高いと考えられることから、①生肉、②缶詰、レトルトパウチなどのウエットフード、③ドライフード、ジャーキーなど乾燥させた製品のいずれであっても適切なマーケティングを行えば、販路拡大は可能であると推察される。

②販売する場所

エゾシカPFは他の畜肉等を原料とする普及品のPFには生産量、価格とも及ばないことから、少量の高価格帯の製品を、インターネットをメインとし、その他、ふるさと納税の返礼品、空港などの土産品などにより販売することが消費拡大につながるものと考えられる。

③販売時にPRする事項

安全性と栄養特性をPRすることや、獣医師への情報提供、給与時のレシピの紹介を合わせて行うことが普及、利活用拡大に有効と考えられた。

また、給与が想定される場面として、特別食（食欲低下時や誕生日など）、報奨等少量給与（しつけ用、おやつ用）、趣向を変える（日常の食事に食べ飽きた様子が見られる際）、ダイエット用などを提案することも消費拡大につながると考えられる。

④行政の役割

本事業や平成28年度エゾシカペットフード実態調査業務の結果などをもとに、エゾシカを取り巻く環境並びにエゾシカPFの嗜好性や栄養特性、入手先を製造者、販売者、獣医師、消費者等に広く周知することや、試供品の提供など実際に給与してもらう機会を増やすことにより、その認識度向上、さらなる活用の促進につながり、エゾシカ肉の付加価値の創出の一助とすることが可能になると考えられる。